

長門湯本温泉景観協定締結に向けたご相談

■景観協定締結の意義

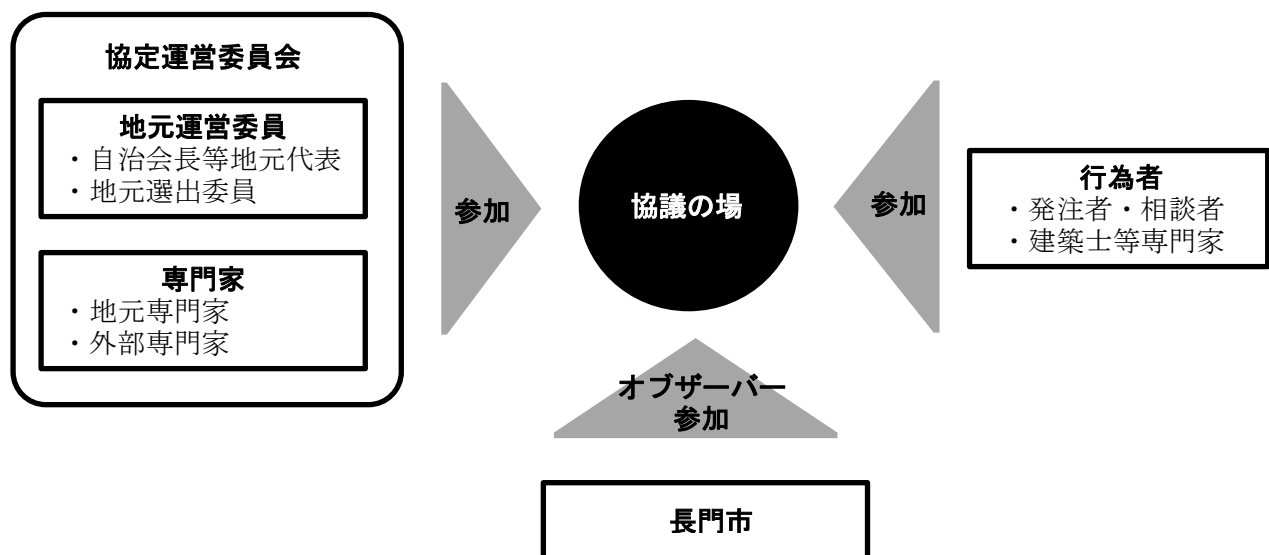
- ・ これまで、湯本、門前、三ノ瀬の3地区で、景観ガイドラインを作成してまいりました。そして、3地区揃って景観計画の重点地区とする準備を進めています。これらは、皆様との協議のもと、行政側が中心となった取り組みです。
- ・ 一方、長門湯本温泉のまちづくりが進む中で、今後、音信川沿いや竹林の階段沿いなどでは、多くの土地建物の売買や建物の新築・改修などが進むことが予想されます。これらの様々な動きを、地元でしっかり把握することが大切です。そのため、音信川や大寧寺川沿い、竹林の階段沿い、そして全ての旅館を含む、図で示す範囲の関係者が協力して景観協定を締結し、民間側からも景観づくりを推進していきたいと考えております。

■景観協定の取り決め内容のイメージ

- ・ 景観協定では、景観ガイドラインの推奨ルールのうち、非自家用広告規制、あかりの色・点灯時間について、地元でしっかり守っていくことを検討したいと考えております。
- ・ また、景観に関する協議の仕組みをつくることを考えています。この協議の場では、建物の形態に関わるだけでなく、がっかり行為（物件の賃貸・売買の事前協議・営業の仕方等）についても検討したいと考えております。
- ・ また、性風俗についての用途制限についても検討したいと考えております。

■協議の仕組みのイメージ

- ・ 景観協定の協議の仕組みとしては、協定運営委員会を設置し、地元運営委員（地元代表者・地元選出の委員）、専門家、長門市の参加の元、運営していくことを考えております。



今後、アンケート調査や説明会を開催し、景観協定の締結を進めて参りたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

2018年10月13日

湯本区自治会長 岡田貢 ・ 長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議

景観協定締結の考え方と進め方

ガイドライン

最低限守るルール

推奨ルール

重点地区
(行政による運用)

最低限守るルール

法的拘束力

景観協定
(民間による運用)

非自家用広告規制
あかりの色
あかりの点灯時間

法的拘束力

協議の仕組み
がっかり行為の予防

用途
(性風俗制限)

法的拘束力

- ・景観ガイドラインの最低限守るルールは重点地区の手法で法的拘束力を担保する。
- ・景観ガイドラインの推奨ルールのうち、非自家用広告規制、あかりの色・点灯時間については、今後、民間による景観協定の手法で法的拘束力を担保する。
- ・その他の推奨ルールは協議の仕組みで推奨する。がっかり行為の予防なども検討する。
- ・がっかり行為とは(物件の賃貸・売買の事前協議・営業の仕方等)
- ・景観ガイドラインでのルールには含まれないが、新たな課題となる用途(性風俗制限)についても、景観協定の手法で法的拘束力を担保する。

